

第 16 回圧力設備規格審議委員会 議事録

1 日 時: 平成 23 年 9 月 27 日 (火) 14:00~17:00

2 場 所: 溶接学会 会議室

3 出席者: (敬称略 順不同)

委員: 佐藤委員長(日揮), 石毛副委員長 (IHI) 酒井 (東大) 西口 (神工大) 緒方 (電中研)
佐々木 (安衛研) 木津 (関西電/香川委員代理) 内野 (東ガス) 田原 (石油連盟)、
富士 (IHI テクノ) 寺田 (神戸製鋼) 大原 (千代田化工) 木下 (パブコック日立)
松田 (三井化) 森 (東芝/松永委員代理) 木原 (ﾊﾞｽﾀﾃﾘｱ)

原案作成者: 木原 (ﾊﾞｽﾀﾃﾘｱ) 近藤 (HPI)

事務局: 河野、田中(HPI)

以上 19 名 (委員数 16 名)

4 資料番号: 圧力設備規格審議 -16-

- 1 第 15 回圧力設備規格審議委員会 議事録案
- 2 HPIS Z 101-2:2011 圧力機器のき裂状欠陥評価方法 第 2 段階評価に対するパブリックコメントの募集結果について
- 3 HPIS F 101:2000 圧力設備等の診断に関する技術者の認証基準 改正案に対する付議について
- 4-1 HPIS F 101:2011
- 4-2 HPIS F 101、F 102 改正リスト
- 5-1 HPIS C 104 圧力容器及びボイラ用材料の許容応力表 安全係数 4 規格改正案に対する付議について
- 5-2 HPIS C 104 追補 1 ~
- 6-1 HPIS C 105 圧力容器及びボイラ用材料の許容応力表 安全係数 3.5 規格改正案に対する付議について
- 6-2 HPIS C 105 追補 1 ~
- 7 JIS Z 8301:2008 (抜粋)
- 8-1 平成 23 年度 JIS の見直し調査、調査表
- 8-2 JIS の見直し調査の実施要領

5 議事

佐藤委員長の司会のもと, 出席委員数が委員会成立の定足数を満たしていることが確認され、以下の議事が進められた。

5.1 前回議事録の確認

資料番号、16-1 により、前回議事録案が読み上げられた。

審議の結果、一部誤字等が修正された。また、5.4 項 HPIS E 101「圧力設備の超音波探傷試験

による非破壊検査方法」については、審議資料が間に合わなかったので今回の審議テーマに上がっていないとの委員長説明があった。挙手による採決が行われ、承認された。

5.2 HPIS Z 101-2:2011 圧力機器のき裂状欠陥評価方法 第2段階評価に対するパブリックコメントの募集結果について

事務局より資料番号 16-2 にもとづいて、パブリックコメントの結果、コメントのなかったことが報告され、了承された。

5.3 HPIS F 101:2000 圧力設備等の診断に関する技術者の認証基準 改正案に対する付議について

5.3.1 制定案の付議及び内容説明

事務局及び原案作成者より資料番号、16-3,16-4-1,16-4-2 にもとづいて改正案の説明が行われた。

5.3.2 審議及び結果

改正案について審議された内容の主なものを下表に示す。

No.	対象箇所		質 疑 内 容	応 答 内 容
1	表紙		英文のタイトルについて、“診断”の語句に対応するものを検討してはどうか。	検討する。
2	本文 5.1 項表	P2	レベル1、2とも、“リスク評価に関する・・・”は、併記ではなく、独立した記載とすべきでは。(内容が異なるため)	検討する。
3	解説 1.2 項	P解1	タイトル“改正の趣旨”ではなく、改正の項目では。	検討する。

修正版が提出された段階で書面投票にかけることが提案され、挙手により全員の承認が得られた。

審議の中で委員長より、本規格は資格認証基準に関するものであり、本来、HPIS F 102「設備等のリスクマネジメントに関する技術者の認証基準」と同時に同じ審議委員会で審議されるべきものである。HPIS F 102 は既にエネルギー貯槽等規格審議委員会で審議されたということであれば、HPIS F 102 との統一化を図ったという項目については本審議委員会で審議する意味がないとのコメントがあった。今回の改正は HPIS F 101 と HPIS F 102 を別々の審議委員会で審議することになったが、次回以降の改正についてどのようにするかは今後検討することとした。

5.4 HPIS 追補版に関する審議 (HPIS C 104, C 105 の追補版)

5.4.1 追補案の付議及び内容説明

事務局より、資料番号、16-5-1、16-6-1 にもとづいて HPIS C 104、C 105 の改正 (追補版) 提案の付議書について、また、PVCS 委員会材料規格分科会の木原主査より、資料番号、16-5-2、16-6-2、16-7 にもとづいて、作成された規格原案 (追補版) の趣旨及び概要について説明が行われた。

5.4.2 審議及び結果

改正（追補版）案について審議された内容の主なものを下表に示す。

No.	対象規格	質 疑 内 容	応 答 内 容
	C 104		
1	表紙	英語表示：Boilers Boiler、 Vessels Vessel 囲い部の“平成”は削除	訂正する。
2	表紙 裏面	英語表示：Boilers Boiler、 Vessels Vessel、Materials を 入れる	訂正する。
3	表	SUS 315J1 は外国に相当材と してあるか。	日本で開発された材料
4		単位：N/mm ² N/mm ²	訂正する。
5		注記：“ある程度とは”の表現	定量的でないがこのままとする。
6	解説	会社名は削除、本分科会は正式 名としては。	左記のとおり修正する。
7		記述方式は、である調に。	修正する。
	C105		
1	表紙	英語表示：Boilers Boiler、 Vessels Vessel Materials 囲い部の“平成”は削除	訂正する。
2	表紙 裏面	英語表示：Boilers Boiler、 Vessels Vessel、Materials を 入れる	訂正する。
3		4、5 は新たに設定したもののか。	C 104 の記載事項と同じ内容を追加したもの。
4	表	規定最少 規定最小 単位：N/mm ² N/mm ²	訂正する。

修正版が提出された段階で書面投票にかけることが提案され、挙手により全員の承認が得られた。

6 HPIS A102：2009 の改正について

HPIS A102:2009 に HPIS の追補版に関する規定がないことから改正が提案され、了承された。改正原案作成は委員会形式を取らず、前回改正時の原案作成委員会の規格作成基準改正 WG 委員長である東京ガス内野氏と事務局で進めることで了承された。

7 JISの見直しについて

事務局より、資料番号、16-8-1 にもとづいて、日本規格協会からの依頼として当協会が作成母体となっている JIS の 5 年見直しについて説明があり、見直し担当部門について審議された。

表の No.1、No.2 については STOP 委員会に、No.3 については PVCS 委員会高圧容器規格分科会に見直しをお願いすることです承された。

以上